

※文字の大きさは Meiryō UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は、変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

＜エントリーシート＞		部門	学校名・氏名
※事務局記入欄		校内研修部門	寝屋川市立 石津小学校
No. : C - 23		活動名	チームで高まる校内研修 ～学年縦割り部会の大いなる可能性～
課題の設定：			
<p>課題：ほとんどの教員が学習指導案検討の経過を知ることなく、研究授業を参観する体制になってしまっているため、討議会での深まりがそれほど感じられない。校内全体で効果的に研究を進められていない。</p> <p>目標：指導案検討に積極的に関わる体制を構築することが、研究テーマに迫るためのより活発で効果的な討議会へと繋がり、校内全体で研究を推し進めていく風土ができていく。</p>			
方針・計画：			
<p>①指導案検討会の部会を従来の横つなりの枠組みを超え、低・中・高学年の教員が交ざった「縦割り部会」に変更。(図1) (研究主題構想図との関連) (図2)</p> <p>②指導案検討会の進捗状況を把握し、非授業者の意見を反映することができる場の設定。</p> <p>③指導案検討への関わり方を視覚化した「ループリック」の作成・活用。</p>			
活動内容：			
<p>研究推進部会で「校内研究ループリック」(図3)を作成し、全職員に配布した後に適宜活用に関して声かけを行った。それと並行し、縦割り部会の指導案検討内容の報告、意見交流を複数回行い(写真1)、研究授業当日を迎えられるようにした。年度末には、年度末反省と併せてループリックの活用の効果や以前の部会のもち方と比較しながら縦割り部会の効果についてアンケートを行った。</p>			
活動の成果：			
<p>従来のものから縦割り部会への変更を提案する際には、「学年を越えると予定を合わせるのが困難」「打ち合わせが増えることでより多忙化する」という不安感が出されたが、実施後の年度末反省では、「自分がどうかかわればよいかループリックに詳しく書かれているので確認しやすかった」「研究推進部が予定を調整してくれたので、円滑に進められた」「他学年と指導案検討を進めることで、自分の学年とのつながり(系統性)についても考えることができた」「事前に児童の実態や本時の山場を知った上で授業を見られたので、児童の反応などをじっくり見ることができてよかった」など、肯定的な意見が多く見られた。またそれと併せて行った教員アンケートでは、多少の人員の変化はあるものの、校内研究が組織的かつ計画的に行われたと感じている教員が大幅に増加していることや、討議会の質の向上にも相関があることが読み取れる。(グラフ1)</p> <p>このように、教員の関わり方を視覚化し、多様に関わり意見を伝え合う時間や場を意図的に設けることで、校内研究が組織的かつ計画的に行われ、その後の討議の活発化につながることを考えられる。一部の教員だけではなく、「チーム学校」として研究を推し進めていくことが学校力の向上につながり、如いては児童の資質・能力の向上につながると考えられる。</p>			
アピールポイント(アイデアや工夫)：			
<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導案作成の経過を学校全体で確認する機会を設けることで、より深く授業を観ることができ、討議会の質を高めることにつながる。(討議の質の向上→学校力の向上→児童の資質・能力の向上) ・縦割り部会による指導案検討は、系統性を意識した多様な意見交流を生み出し、討議会の質を高めると同時に、担当学年だけでなく、学校全体で児童の資質・能力を育てようとする風土が構築されることにつながる。 ・主観ではなく、データに基づき、取り組みの効果を図る研究体制の構築。 			

＜写真、図表添付欄＞

図1. 従来の学年部会から縦割り部会への変更



図2. 研究主題構想図との関連

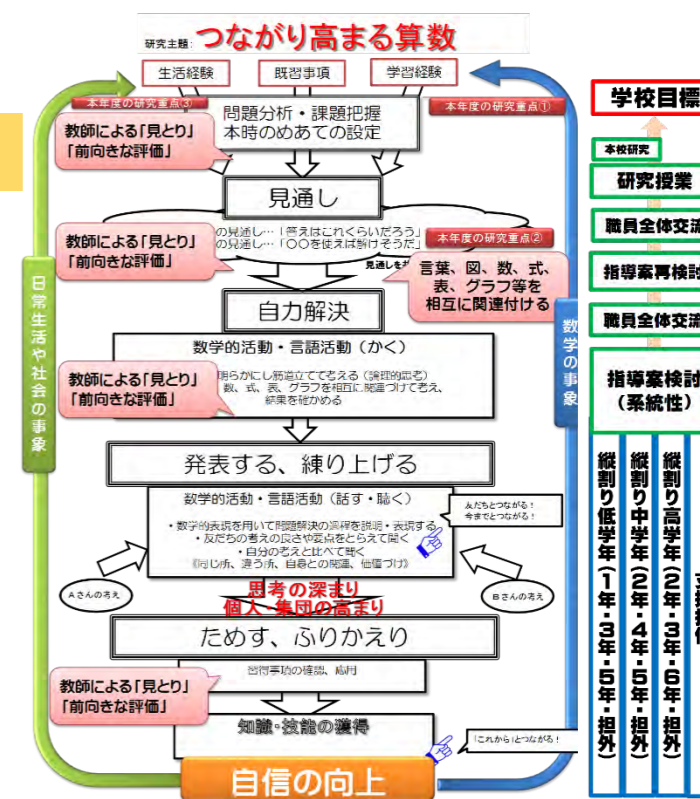


図3. 校内研究ループリック

指導案検討へのかかわり	ステップ ①	ステップ ②	ステップ ③
1 研究テーマ等の確認	指導案検討の際にテーマや仮説を確認することを心がけた。	指導案検討の際にテーマや仮説を確認した。	研究授業とテーマや仮説の関わりについて授業改善に役立つ考えを提案できた。
2 単元/教材の理解	研究授業で扱われる単元・教材について把握した。	研究授業で扱われる単元・教材について調べた。	単元・教材の他学年との系統性に着目し、新たな視点を提案できた。
3 児童の実態把握	研究授業がおこなわれる学級の児童の様子を思い浮かべながら考えた。	研究授業がおこなわれる学級の児童の実態を交流した。	研究授業がおこなわれる学級の児童の実態について理解し、自分なりの指導の手立てを考えた。
4 授業者へのかかわり	研究授業について授業者と関わりを持つとした。	授業者と研究授業について話した。	研究授業について、自分なりの考えを授業者に提案した。
5 学習指導案の熟読	研究授業前に指導案を目を通した。	研究授業前に指導案を熟読した。	指導案を批判的に読み、自分なりの考えを持った。

グラフ1. 校内研に関する教員アンケート結果の変容

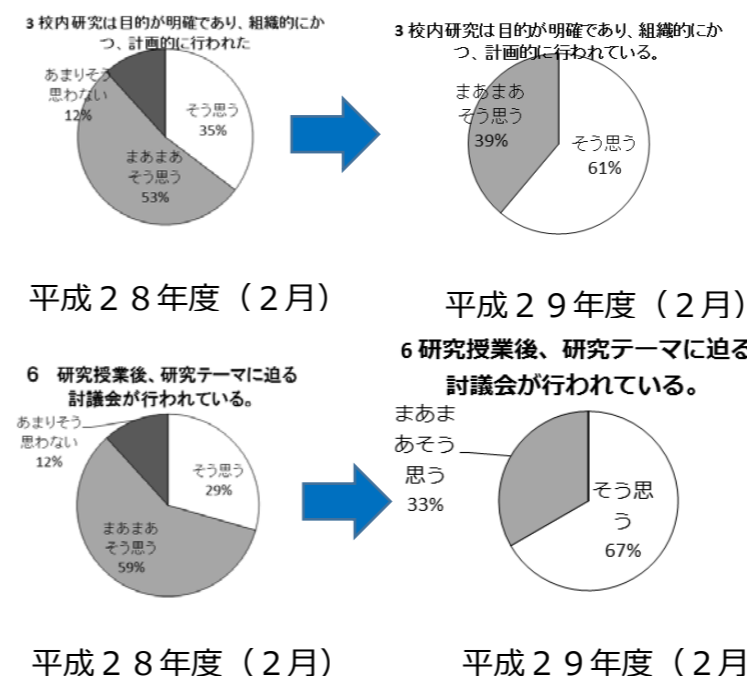


写真1. 指導案に関する意見交流の様子

